

ひのたにえん

2019 秋号



毎年、ひのたに園の職員が自宅の農地で育てているジャガイモの収穫を手伝っています。

園長コラム

「仕事の醍醐味」

ひのたに園 園長 齋藤誠一

去る10月3日に恒例の運動会を開催しました。わらべ保育園のみなさんにも参加いただき、活気のある雰囲気の中、笑いあり感動ありの運動会でした。わらべ保育園のみなさま、本当にありがとうございました。

さて、その日の一幕です。5月に腸閉塞に罹り、退院後は歩行器を利用していただいていた利用者さんにリレーの出番がまわってきました。それまで歩行器を使用して移動されていたその方が歩行器を使用せずリレーの列に並びます。スタートを切り、折り返し地点で対戦相手と競っていたその瞬間。その利用者さんが走り出したのです。この日一番の声援が会場に巻き起こりました。

また、こんなエピソードもあります。コミュニケーションが苦手な、通院時の帰りのタクシーを呼ぶことができず、そのまま数時間歩いた先の公園で一夜を明かした経験を持つ利用者さんが、SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）への参加を契機に、自ら挨拶をされるようになり、ある日にはカラオケに参加されTOKIOの「宙船」を熱唱されました。私は、このような出来事を見聞きするたびにこの仕事の面白さを実感します。ひよっとするとこれらの経験に支えられて仕事をしているのかもしれない。まさに仕事の醍醐味といえます。

本紙でも紹介していますが、赤い羽根共同募金の助成金を頂戴し、9月から芸術活動と農業活動を始めました。これらの取り組みでもきっと、私に醍醐味を感じさせてくれるのではないかと期待に胸が高鳴ります。

最近のひのたに園

7/30 納涼盆踊り祭

8/3 日野氏郷まつり「夏の陣」花火鑑賞

8/25 近江和太鼓団巴（ウヰマキ）来園

9/7 「あぐりひのたに」活動開始

9/12 「アトリエセラミカ」活動開始

9/20 「星に語りて」上映会

（わたむきホール）

8/25 近江和太鼓団巴（ウヰマキ）来園！！

8月25日（日）交流センターにて近江和太鼓団巴（ウヰマキ）さんの和太鼓演奏がありました。今回で3度目の演奏となります。‘どーん’と心地よい響きがホール中に広がります。いつも楽しい体験コーナーがあります。今回はソーラン節を巴さんと一緒に演奏しました。丁寧な指導で初めてバチを持つ人も楽しく演奏出来ました。楽しい時間はあっという間に過ぎます。またの来園を楽しみにしています。



7/30 ひのたに園・納涼祭を

開催しました！！

「みんなで踊る江州音頭、楽しかったな〜」

力強い「コラ ヨイトヨイヤマカ ドッコイサノセ〜」の音頭・囃子が聞こえる7/30の晩、納涼祭を開催しました。多くの方々のご参加で江州音頭は大盛り上がり！浴衣を素敵に着つけていただき「見て」と大喜びの方、法被を着て嬉しそうにカメラにピースする方、素敵な表情が見られました。

模擬店は長蛇の列。ゲームコーナーも大人気で射的、的入れに夢中の子ども達、大人も負けじと指が痛くなるまで射的で景品を狙いました。カラオケでは皆さん自慢の歌声を披露。振付付きの素敵な歌を披露したKさんは99点を叩き出し見事優勝し、会場の皆から大きな拍手！とても嬉しそうでした。

今年は利用者の実行委員会も結成。最初は遠慮がちだった方も始まると血が騒ぎ「いらっしやい」と元気に声が出ました。ゲームを盛り上げ、受付では靴袋やチケットを配り、会場が綺麗が見回ったりと実行委員会の皆さん自信を持ち役割を担っていました。

地域の皆様、ボランティアの皆様、関係機関・者の皆様にご協力していただき盛大に納涼祭を開催する事が出来ました。



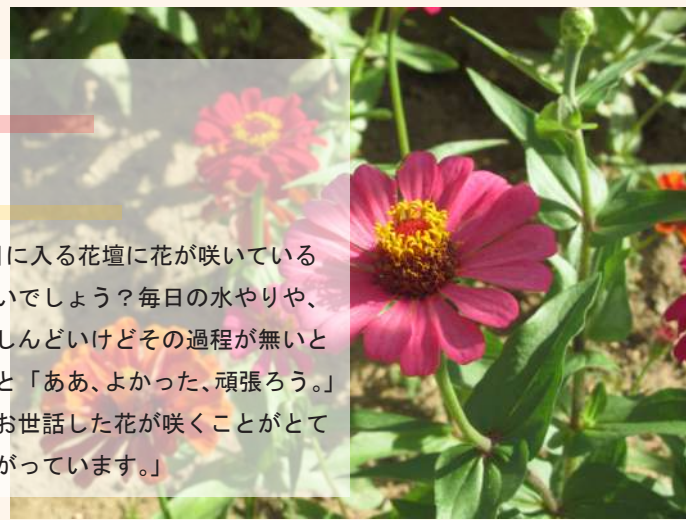
花を育て、季節を感じる。

今年度から、園内の花壇で花を育てる園芸活動を日中活動に取り入れています。

花を育てることは簡単ではありませんが、自分達が育てた花が咲くととても嬉しいものです。この夏にはひまわりを育て、今は秋のコスモス、来年の春に向けてチューリップを育てています。園芸活動を通して季節を感じ、楽しんでいます。

利用者の声

「ひのたに園に来た方の目に入る花壇に花が咲いていると綺麗だし、気持ちがいいでしょう？毎日の水やりや、草抜きをするのは大変でしんどいけどその過程が無いと花は育たない。芽が出ると「ああ、よかった、頑張ろう。」と思えます。自分たちがお世話した花が咲くことがとても嬉しく、やりがいに繋がっています。」



「出来ちゃった婚、昔もそう言うてたよ（笑）」

河部利美さん（71歳）

入所して3年になる河部さん。「なんか恥ずかしいわ〜」と言いながら話を聞かせてくださりました。

>河部さん、お生まれはどちらですか？

京都の四条大宮。阪急の四条大宮のバス停がある辺り。

>ご兄弟はいらっしゃいましたか？

6人姉弟で上から女3人、男3人。うちは一番長女で生まれてね（笑）
「みんなの面倒見なあかん」ってお母さんがいわはったさかい、子守りもしてきたし、ミルクあげたりもしてたし、おかあさん弱かったしね、体が。一番下の弟なんて20歳下よ。

>そうなんですね。でも高校卒業してお仕事を？

うん、「ヤサカタクシー」言うて、京都とかそこの超一流の車屋さんだわ。そこで、経理とかお給料入れたりしてね。ドライバーさんが朝出発して、夕方帰ってきはるでしょ、そのお金を計算すんやわ。

>その日に稼いだ運賃を精算してたんですね。

みんな1万円前後は持って帰ってくるんやわ。それを報告して、「間違いありません、なんぼ頂きました」って確認もらってね。でも次から次へとくるから「いつ終わるのかなあ」って感じやった。そこで旦那さんと出会って、出来ちゃった結婚やったけど（笑）

>昔も「できちゃった結婚」って言ってたんですね。

そうそう、でも5年くらいで離婚して、息子は一人で育てたんよ。彼はトラック運転手になってね。これくらいのカバンに着替えを入れて、「明日から、トラックで九州に行くさかいに。これとこれ着替えもってくし、おかあさん帰ってきたら洗濯して！」って。帰ってきたら、その名産のお土産を買って来てくれはったんよ。

（聞き手・文 御代田太一）



「濱さん（左）との写真、使ってや」と河部さん（右）

人生いろいろ

ひのたに園で暮らす方に、これまでの生い立ちやひのたに園での日々についてお聞きしました。

「こう見えて学校はずっと無遅刻無欠勤やで」

馬城修さん（56歳）

今年入所された大阪出身の馬城さんに今回はお話を伺いました。

>今まではどんなお仕事をされてましたか？

重機乗って道路つくったり、マンション解体したりしてたね。重機が入りにくいところはハンマーで壊したり。

>すごいですね。壊せるもんなんですね。

少しづつ削っていったらなんとかなるもんよ。あとドリルで穴開けたりすると壊しやすい。そうすると勝手に筋肉もついてくるで。

事務所前のベンチにて。

>ジム要らずですね。他には何かしてましたか？

ストーブ運んだり、窓枠の会社でサッシ貼り付けたり。ちょっと前は皿洗ったり、クリーニングの手伝いなんかもしてたで。

>いろいろしてきたんですね。

とにかくこういう性格やから体を動かす方が性に合ってる。座っていると眠くなってまうから授業中もよう寝てたもん（笑）

>授業は寝てばかりですか？（笑）

嫌いな授業は毎回寝てたね。先生も途中から注意せんくなった。でもこう見えて学校はずっと無遅刻無欠勤やで。剣道も真面目にやってたから。勉強は嫌いやけど学校は好きやってん。

>真面目なのか不真面目なのかわかりませんね（笑）ひのたに園での暮らしはどうですか？

楽しくやってるよ。これからも皆さん、どうかよろしくお願いします。

（聞き手・文 檜山淳二）



アトリエ活動

「アトリエ・セラミカ」が始まりました！！

9月より、アトリエ活動「アトリエ・セラミカ」が始まりました。「セラミカ」とはポルトガル語で「陶芸」を意味します。社会復帰棟（旧さつき荘）にて、日野町在住の陶芸家・中田美穂先生を講師にお迎えし、月2回のペースで制作に挑戦しています。

ひのたに園では古くは絵画工作クラブにはじまり、日中活動グループでの制作やアートクラブにおいて、「作ること、描くこと」への取り組みを続けてきました。あたらしい自分を知り意欲または能力を取り戻す等、表現活動はご自身の活力を得る糸口となるのではないかと大きく期待しています。より深い自己表現ができる場として「アトリエ・セラミカ」へ参加していただきたいと思います。

制作後にはお互いの作品を鑑賞しますが、その時間は自分と他者とのちがいやよさを知り、それぞれが「ちがってあたりまえ」であることを体感できる空間でもあります。現在は5名でのスタートですが、職員も含め多くの方に体験していただきたいと思います。個々の作品を文化祭で展示いたします。ぜひご覧ください。



農業活動

「あぐりひのたに」が始まりました！！

9月よりひのたに園の坂下にある畑を地域の方にお貸しいただいて、農業活動の取り組みを始めました。ささやかな農園ですが、自然の中で、土に触れ、大地を耕し、水をやり、太陽を浴びて、育っていく植物を肌で感じていただけたらと願っています。また、人間も自然の中の一部であり、その自然の尊さを活動を通じて感じていただけたら幸いです。そんな思いの中、スタートしました。失敗もありつつも育てるといふ楽しみの中で、明日への希望の種を植え育てていきます。



「アトリエ・セラミカ」「あぐりひのたに」は赤い羽根福祉基金「救護施設等のセーフティネット機能強化助成事業」の助成を受けて実施しています。

新任職員紹介

①出身 ②好きなもの ③自己紹介

<生活支援員>



犬井美香

- ① 東近江市
- ② 裁縫と料理 子供の小袋、バッグを作ったり、刺繍をするのが好きです。得意料理はギョーザ、ハンバーグ、オムライスです。
- ③ 7月から社会復帰棟の支援員として働かせていただいています。あまり園にはいませんが、園で見かけた際には声を掛けてもらえると嬉しいです。よろしく願います。

<看護師>



寺西美香子

- ① 島根県松江市。海の幸、山の幸、温泉あり、自然豊かなところです。
- ② 車が好きでよく一人で海を見に行ったり、温泉に行き、まったりしています。
- ③ 病院、高齢者施設を経験して8月よりひのたに園でお世話になっております。救護施設のことはまだまだ分からないことばかりで、至らないことも多々あると思いますが、いろいろと教えていただきながら、これまでの経験を活かし、頑張っていきたいと思っています。よろしく願います。

編集後記

広報誌「ひのたにえん」では、園内の雰囲気をもっとリアルに、かつ魅力的に伝えるため、利用者や職員の顔が見えるような記事を心がけています。写真も厳選しています。お一人お一人の表情にぜひご注目ください。



救護施設「ひのたに園」広報誌（2019年秋号）

2019年10月発行

〒529-1601 滋賀県蒲生郡日野町松尾 121

TEL 0748-53-0645 FAX 0748-53-2598